

# 国際ニュースのギモン

## ミレニアム 開発目標は 達成できそう？

2015年までに世界の貧困を半減させることを公約したミレニアム開発目標(MDGs)。達成期限と数値目標を定め、2000年の国連ミレニアムサミットで採択された。今年7月にはちょうどその折り返し地点。7月に国連は中間報告を発表した。MDGsの進捗と今後の課題とは？

協力：村田俊一(国連開発計画(UNDP)駐日代表 Murata Shun-ichi)  
1953年福岡県出身。ジョージ・ワシントン大学大学院国際政治経済学博士課程修了。ハーバード大学ケネディスクール公共行政学修士修了。ウガンダ、スーダン、中国など世界各々のUNDP事務所に勤務。その後モントリオールにUNDP事務所駐在代表、アムステルダム駐在調整官兼UNDP常駐代表、関西学院大学総合政策学部教授などを経て、2006年11月より現職。

**Q** MDGsが生まれた背景にはどんな問題がありましたか？

**A** 当然、中心は貧困問題です。現在も世界の約3人に1人、23億人もの人たちが1日2ドル以下の生活を強いられています。生きるために最低限必要な食料や生活物資、資源へのアクセス、社会的な権利や参加の機会を持たない人たちが、つらい生活から抜け出すための最終手段として武力に訴え出していることが、各地で起きている社会不安やテロ・紛争の原因となっていることが多いです。MDGsは、そうした問題に対処するための、国際社会が負うべき最低限のコミットメントの一つです。

**Q** 現状を教えてください。

**A** 進捗状況には、大きなムラがあります。全体的には、教育の普及、女性を中心とした識字率の向上、乳幼児死亡率の低下など、進捗が見られます。全人口の3分の1以上を占めていた1日1ドル以下で暮らす最貧困層の割合も、この7年間で5分の1以下に減少しました。しかし、アフリカのサブサハラ以南(サブサハラ)など、貧困が最も深刻な地域では、多くの人々がこうした進歩から大きく取り残されています。その背景には、不均衡な富の分配という問題があります。最近ではアフリカの中でも経済成長の著しい国が見られますが、同時に持てる者だけが富を蓄積している者も持たざる者の格差が急速に広がっています。

**Q** こうした状況を踏まえ、改めてどのようなことが課題となつていきますか？

**A** 最も助けを必要とする地域と人々に援助が届いていないという問題があります。例えば新たな借財による援助が組まれるとしても、返済の可能性において返済の低い国よりも、確実に返済が期待できる国へ援助が偏る傾向があり、結果的に貧富の格差を助長してしまいます。本来は、成長によって得られる利益が、社会政策や教育・保健政策への投資として再び再分配されるべきか、といった再分配への投資を促すことが一つの目的に、借財の対象を決定すべきです。また、富の分配が適切に行われていない国に対し、最貧困層に分配されるような働きかけのガバナンス支援が一層重要

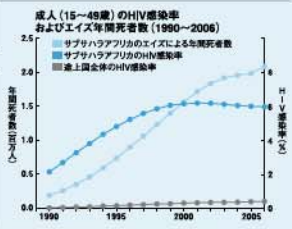
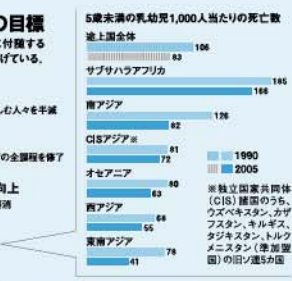
**Q** 要になっていきます。開発途上国側は、ガバナンスを改善し援助を無駄なく生かせる体制を構築し、一方ドナーは、途上国自身が財政の計画を立てやすく、また消化しやすい形で、ベース配分を十分に考えて援助を行っていくことが大切です。多数の小さなプロジェクトを必要とするようなプロジェクトの大きなプロジェクトが押し付けられても、期待される効果は得られません。例えば、子どもに一度に多くのアイスを与えればお腹を壊してしまうのと同じで、短期間で多額の援助により、その国自体が疲弊してしまう可能性があります。そういった意味で、現在は単年度での予算計画上に基づいた開発援助が主流ですが、今

後は途上国の個々の状況に合わせて援助できるように複数年度予算の導入も考えていくべきです。必要なのは、適切な時期と量を考慮した柔軟性のある援助です。それにより、途上国側は長期的な開発計画を立てやすくなります。

**Q** MDGs達成へ向け、国連果たすべき役割は？

**A** これまでのMDGsの経過をきちんと振り返り、目標達成に向けた明確な行動を導いていかなければなりません。現在、より効率的な効果の高い援助を実施するため、「11つの国連」\*1の考え方を中心とする国連改革の動きがあります。また、9月18日から開催される国連総会でも、紛争、HIV/エイズ、気候

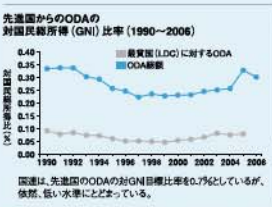
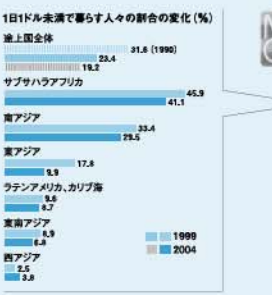
**Q** 中間地点のMDGsの進



### MDGs 2015年に向けた8つの目標

MDGsでは、国際社会が達成すべき8つの目標とそれに付随する18のターゲット、進捗状況を測定するための48の指標を用いている。

- 1. 極度の貧困と飢餓の撲滅**  
ターゲット1-1: 1日1ドル未満で生活する人々、飢餓に苦しむ人々を半減
- 2. 普遍的初等教育の達成**  
ターゲット3: すべての子どもが男女の区別なく初等教育の全課程を修了
- 3. ジェンダーの平等の推進と女性の地位向上**  
ターゲット4: すべての教育レベルにおける男女格差の解消
- 4. 乳幼児死亡率の削減**  
ターゲット5: 5歳未満児の死亡率を3分の2減少させる
- 5. 妊産婦の健康の改善**  
ターゲット6: 妊産婦の死亡率を4分の3減少させる
- 6. HIV/エイズ、マラリア、その他の疾病の蔓延防止**  
ターゲット7: 2015年までに蔓延を阻止し、その数を減少させる
- 7. 環境の持続可能性の確保**  
ターゲット8-11: 持続可能な開発の促進、環境資源の喪失防止と回復、安全な飲料水と衛生設備を利用できない人々を半減させる、など
- 8. 開発のためのグローバル・パートナーシップの推進**  
ターゲット12-18: 健全な貿易・金融システムの構築、途上国の長期的開発資金、適切で生産性のある規制の調出、債務・債務分類の整理、など



**Q** 7月末にイギリスのブラウン首相が、MDGsの進捗を見直し行動を加速化するための会議を2008年に開催するよう呼び掛け、日本も主要各国首脳とともに承認するなど、より積極的にかかわる

**Column**  
**MDGsと市民社会**  
MDGsをめぐるNGOや市民社会の動きが盛んだ。「MDGsの実現に向け」をテーマに、2004年に設立された「NGO-労働組合国際協議フォーラム」は、地球規模の問題に取り組むNGOと、労働運動の一環として国際的な社会貢献活動に力を注ぐ各種労働組合が協力し結成された連合団体だ。現在、セミナーやシンポジウム、児童労働や保健など各分野でのグループ活動を行っている。また「NPO法人はつけない世界のまずしさ」はUNDP後援のもと、MDGsのロゴ(上図参照)やTシャツ製作など、精神的にキャンペーンを展開している。MDGsを公約した各国の政府に対し、達成に向けた努力を促すこうした市民社会の役割が、今、クローズアップされている。

変動、ティーンセントワーク\*2、などMDGs中間報告を踏まえた今後に向けての議論が行われる予定です。MDGsは、包括的に世界の現状を把握し、対策を立てるための説得力を持つツールとしての取組みの結果をどう解釈し、いかにフォローアップして今後につなげていくかが問われています。また、国連はMDGsを達成するだけでなく、「弱者を取り残さない」人々がこのような場所に、このへんがいます」という意識を国際社会に対し開示していく重要な役割を担っているのです。

**Q** 姿勢を見えています。今後日本に求められることは？

**A** 貧困、難民、環境、資源管理を巡る争いなど、国際社会が抱える問題は、わが国にも大きく影響しており、こうした問題に積極的に取り組むことは、国際社会での信頼につながるはずです。来年5月に開かれる第4回アフリカ開発会議(TICAD IV)では、日本のODA、国連、世界銀行、NGOなど多くの援助実施者が連携し、アフリカの貧困に開発にかかわる主要な問題について、具体的な議論を行います。この会議を日本がリードすることは、アフリカの日本に対する信頼を再構築するという意味で、有意義なものになるでしょう。

**Q** 資源や食料などを海外からの輸入に大きく依存する私

**A** 貧困、難民、環境、資源管理を巡る争いなど、国際社会が抱える問題は、わが国にも大きく影響しており、こうした問題に積極的に取り組むことは、国際社会での信頼につながるはずです。来年5月に開かれる第4回アフリカ開発会議(TICAD IV)では、日本のODA、国連、世界銀行、NGOなど多くの援助実施者が連携し、アフリカの貧困に開発にかかわる主要な問題について、具体的な議論を行います。この会議を日本がリードすることは、アフリカの日本に対する信頼を再構築するという意味で、有意義なものになるでしょう。

ちの生活を考えると、国際社会と協調し、各国の良い関係を保持することが不可欠なものは言うまでもありません。日本が行ってきた人道主義的な貢献は国際社会で評価されており信用も高い。私たちはこのことに対する誇りと自覚を持つべきです。そして今後日本がリーダーシップを取っていくためには、国民が途上国の問題へ目を向け、世界各地で起きていることが自分たちの生活と密接しているか、わかっていくと強く認識する必要があります。その点でMDGsは、決して難解な国際公約ではなく、世界の現状を理解し、どんな行動が必要かを考える、一人一人のためのツールなのです。

**Q** 2 権利の保障、十分な収入、適切な社会的保護のある生産的な仕事。

※1 途上国で複数の国連機関が事業を重複して行っているケースが多いという現状に対し、予算を一つの枠組みに統合し、国ごとの優先課題に従ってプログラムを実施することで、より効率的・効果的な援助を目指す体制づくり。